

日本医師会

診療所における新興感染症対策研修検討委員会(プロジェクト)
及び研修について

定例記者会見
令和5年10月25日（水）

設立背景・目的

- ・日本は、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）による人口当たり死亡者数や陽性者の致死率の低さなど、国際的な比較でみても相当の医療実績を積み上げてきた。
こうした結果は、全国の診療所の医師がコロナに懸命に対応されるとともに、平時から地域に根ざして住民の健康を守り、かかりつけ医としてご尽力されてきたことの表れでもあるといえる。
- ・診療所は、感染症法に基づく協定締結医療機関か否かを問わず、平時では地域医療の第一線を担い、有事でも相応の対応をする。
- ・日本医師会として、全国の都道府県医師会・郡市区医師会とともに、診療所の重要性を対外的に発信するよう努めるとともに、診療所の新興感染症への対応力を一層高めることを目的に、医師会ブロック、都道府県医師会や郡市区医師会のための、モデル研修を行う。
- ・ついては、上記の「診療所を対象とした新興感染症対策研修」のプログラムや研修実施方法等を検討するため、次項の通り委員会を設置する。

プロジェクト委員会の構成員

氏名

所属・役職

(敬称略・◎委員長)

鳥居 明

(東京都医師会理事)(「予防接種・感染症危機管理対策委員会」委員)

笹生 正人

(神奈川県医師会理事)

鋤方 安行※

(大阪府医師会理事、関西医科大学 救急医学講座 教授)

(「救急災害医療対策委員会」委員)

平林 弘久※

(兵庫県医師会理事)(「救急災害医療対策委員会」委員)

◎館田 一博

(東邦大学 微生物・感染症学講座 感染病態・治療学分野教授)

泉川 公一※

(日本環境感染学会災害時感染制御検討委員会 委員長)

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床感染症学分野 教授)

(長崎大学病院 感染制御教育センター センター長)

菅原 えりさ※

(日本環境感染学会災害時感染制御検討委員会 委員)

(東京医療保健大学 大学院 医療保健学研究科 教授)

※日本医師会 JMAT 研修オプション(COVID-19編)インストラクター(令和5年7月30日(日))

プロジェクト委員会の任期・審議事項・担当役員

＜任期＞

本委員会の設置を承認した常任理事会の開催日より令和5年度決算に関する代議員会終結のときまで

＜審議事項＞

- ・ 研修プログラム、教材、必要な資器材や研修実施方法等の検討
（日本医師会JMAT研修オプション研修（COVID-19編）を参照）
- ・ 日本医師会によるモデル研修の企画、実施、事後検証
- ・ 医師会ブロック、都道府県医師会や郡市区医師会による研修への支援の方策

＜担当役員＞

茂松副会長、釜菴敏常任理事

診療所における新興感染症対策 日本医師会モデル研修 イメージ

第1回

診療所における新興感染症対策研修検討委員会

(令和5年10月25日)

新型コロナウイルス感染症における診療所の対応イメージ

2020年 4月～
当初

ダイヤモンド
プリンセス号対応
コロナ患者は帰国者・
接触者外来に集約

9月（実質的には10,11月～）

診療・検査医療機関となる医療機関が少ない、
かかりつけ患者のみを診る医療機関が多いとの報道
日本医師会から都道府県医師会・郡市区医師会を通
して再三要請。厚労省からも協力依頼

2022年1月

オミクロン株への移行

2023年5月

5類感染症への移行

地域医師会等が担う地域外来・検査センターに会員医師が出務し、住民の検査に対応

類型変更後は
外来対応医療
機関

この間、PPEが確保
され、また感染防
御、検査方法や
ゾーニング等の知
見の蓄積が進んだ。

発熱外来を担う診療・検査医療機関がスタート。幅広く発熱患者を診る体制を構築
・一部の都道府県では、医師会の方針により当初から全医療機関を自治体HPで公表
・日本医師会においても、診療・検査医療機関の拡充、公表を要請
・郡市区医師会が受診・相談センターとして案内し、効率的な受診を実現している地域もある

コロナ感染拡大を受け、地域医師会等の協力を得て、自宅療養者
に対する健康観察・診療医療機関の整備が打ち出される
（特に、診療・検査医療機関が自院の陽性患者への診療の継続）

自宅療養者等への健康観察、診療
行政から医師会への業務委託協定のひな型提示

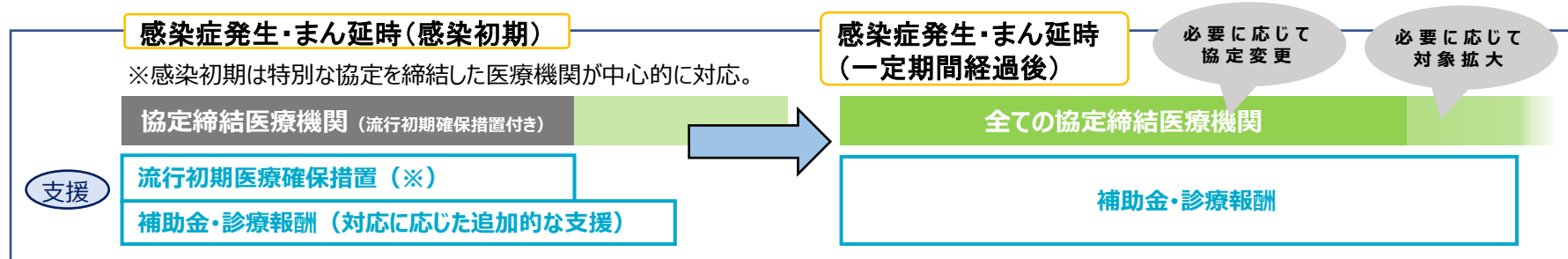
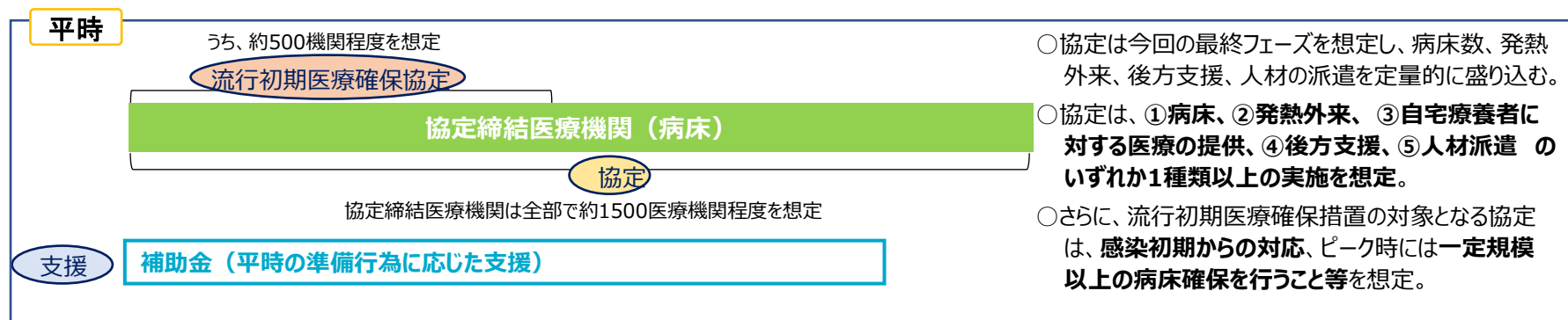
宿泊療養施設
多くの会員医師が参画。感染症専門ではない医師が参加できるよう、各医師会にてマニュアル作成や研修を実施

後遺症外来
かかりつけ医と専門病院のネットワークづくり、診療ガイドライン作成

2022年感染症法等の改正：医療措置協定（厚生労働省資料）

都道府県と医療機関の協定の仕組み

- ✓ 都道府県知事は、平時に、新興感染症の対応を行う医療機関と協議を行い、感染症対応に係る協定（病床/発熱外来/自宅療養者等に対する医療の提供/後方支援/人材の派遣※）を締結（協定締結医療機関）する。※併せてPPE備蓄も位置づける。
- ✓ 協定締結医療機関について、流行初期医療確保措置の対象となる協定を含む協定締結する医療機関（流行初期医療確保措置付き）を設定。
- ✓ 全ての医療機関に対して協議に応じる義務を課した上で、協議が調わない場合を想定し、都道府県医療審議会における調整の枠組みを設けた上で、全ての医療機関に対して都道府県医療審議会の意見を尊重する義務を課す。
- ✓ 加えて公立・公的医療機関等、特定機能病院、地域医療支援病院にはその機能を踏まえ感染症発生・まん延時に担うべき医療の提供を義務づけ。
- ✓ 感染症発生・まん延時に、締結された協定の着実な履行を確保するため、医療機関の開設主体ごとに、協定の履行確保措置を設定。



（※）初動対応は特にハードルが高いことから、履行確保措置とセットで感染流行初期に財政的な支援を行う仕組みを設ける。一定期間の経過により、感染対策や補助金・診療報酬が充実すると考えられることから、以後は補助金・診療報酬のみの対応とする。具体的な期間は、感染症の流行状況や支援スキームの整備状況等を勘案して厚生労働大臣が決定する。

次の新興感染症まん延時における診療所の対応イメージ

(医療措置協定が適用される場合)

未知の
感染症
の発生

国より新型インフルエンザ等感染症等発生公表
＝医療措置協定適用開始
(新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症)

公表より
3か月経過
(目途)

さらに3か
月経過
(目途)

国より新型インフルエンザ等感染症等と認められなくなった旨の公表

特定・第一種・第二種感染症指定
医療機関が対応

特別な協定（流行初期医療確保措置）を締結した医療機関

通常の協定を締結した医療機関のうち、公立・公的医療機関等を中心に新興感染症対応

通常医療へ

通常の協定を締結した多くの医療機関が新興感染症対応に参画

- ・発熱外来
- ・自宅療養者等への健康観察・診療
- ・宿泊療養施設への出務 他

地域医師会の臨時発熱外来、宿泊療養施設への出務



ゾーニング不可や重症化リスクのある患者がいるため、自院では、新興感染症対応ができず、協定未締結の医療機関感染症にかかわりが少ない診療科の医療機関

診療所を対象とした新興感染症対策研修の検討 概要案

1. 日医モデル研修の実施

- ・ 医師会ブロック、都道府県医師会や郡市区医師会のためのモデルとなる研修

2. 研修の対象・内容（下記は候補）

- ・ 自院の感染対策
- ・ 発熱外来の実施
- ・ 自宅療養者の居宅への往診・訪問診療等

3. 地域での研修実施に対する支援のあり方

- ・ 研修のeラーニングシステム及び動画や教材等のコンテンツの提供
- ・ 研修資器材の貸出（マネキン、ブラックライト等）
- ・ テキスト等の提供

委員会審議事項

- ・ 研修プログラム、教材、必要な資器材や研修実施方法等
（日本医師会JMAT研修オプション研修（COVID-19編）を参照）
- ・ 日本医師会によるモデル研修の企画、実施、事後検証（アンケート）
- ・ 医師会ブロック、都道府県医師会や郡市区医師会による研修への支援の方策
- ・ その他

診療所を対象とした新興感染症対策研修 スケジュール（案）



◆事前学習（JMAT-e・小テストあり）◆

科目	概要	講師
講義 COVID-19 について	・「新型コロナウイルス感染症時代の避難所マニュアル」について	山口先生
講義 COVID-19 について	・医師会、JMAT に求められること	猪口先生
講義 検体の採取	・厚生労働省掲載動画「新型コロナウイルス感染症に関するPCR検査のための鼻腔・咽頭拭い液の採取のための研修動画」（2020/05/20）	鎌方先生 古宮先生 川村先生
講義 ゾーニング	・DICT について	泉川先生



テキスト
日本医師会マニュアル



PPEの着脱

◆当日プログラム◆

科目	概要	講師	時間
実習 標準予防策 (講義+実技)	・避難所における感染対策（マニュアルp17-p27） ・アルコール等による手指消毒、環境の衛生管理	千酌先生 櫻井先生 北村先生	20分
PPEの着脱 (講義+実技)	・個人防護具の着脱手順、N95マスクの着脱手順 (マニュアルp54-p60)	菅原先生 寺坂先生 豊米先生	20分
検体の採取 (講義+実技)	・検体採取実習（鼻咽頭ぬぐい液、唾液）	鎌方先生 古宮先生 川村先生	20分
実習 ゾーニング (机上演習)	・避難所のゾーニング指導（マニュアルp28-p48） ・保健所や専門家チームとの役割分担・連携体制	平林先生 泉川先生 馬場先生	60分
実習 クラスター対策 (机上演習)	・避難所のクラスター対策 ・保健所や専門家チームとの役割分担・連携体制	近藤先生 三村先生	90分

◆事後学習◆

科目	概要	講師	時間
実習 標準予防策	・手指衛生動画（流水手洗い・アルコール消毒）	千酌先生 櫻井先生 北村先生	5分



検体採取



ブラックライトを使った
手洗いチェック



ゾーニング机上演習

都道府県医師会や医師会ブロックで同様の研修が行われるよう
モデル的な研修として実施。マネキン等も貸出し。